

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 7 区分  
 【発行日】平成22年9月16日 (2010.9.16)

【公開番号】特開2009-51663(P2009-51663A)  
 【公開日】平成21年3月12日 (2009.3.12)  
 【年通号数】公開・登録公報2009-010  
 【出願番号】特願2007-252583(P2007-252583)  
 【国際特許分類】

B 6 5 G 33/32 (2006.01)

B 6 5 G 65/46 (2006.01)

【F I】

B 6 5 G 33/32

B 6 5 G 65/46 Z

【手続補正書】  
 【提出日】平成22年7月9日 (2010.7.9)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

上部にホッパーが設けられた水平スクリーコンベヤの出口部に垂直スクリーコンベヤを両コンベヤの軸心線を交差させて突き合わされた状態で直交させて連結しており、該垂直スクリーコンベヤのシリンダーは、軸線方向に分割された一対の部材により構成され、該部材の一方を水平スクリーコンベヤ側に固着し、他方を一方の部材に対して回転可能に支承する構成とされた食肉移送用スクリーコンベヤであって、前記垂直スクリーコンベヤのシリンダーの分割面が水平スクリーコンベヤの送り方向に対して直交するように配置されており、前記水平スクリーコンベヤのシリンダー出口部と垂直スクリーコンベヤのシリンダーとの突き合せ部付近における垂直スクリーコンベヤのスクリーの外周に近接した位置に、水平スクリーコンベヤのスクリーの先端部を支承する軸受具が設けられ、該軸受具に対し前記水平スクリーコンベヤのスクリーの先端部が挿脱可能とされたことを特徴とする食肉移送用スクリーコンベヤ。

【請求項 2】

前記垂直スクリーコンベヤのシリンダーの一方が回転された状態で前記軸受具と水平スクリーコンベヤのスクリーとを、若しくは軸受具のみを前記回転されたシリンダー側から抜き取ることが可能に構成されたことを特徴とする請求項 1 に記載の食肉移送用スクリーコンベヤ。

【請求項 3】

前記軸受具は、水平スクリーコンベヤのシリンダー先端部の内壁に嵌脱自在に嵌め込まれる外環と水平スクリーコンベヤのスクリー先端部を支持する中心部に設けられたボス部とで構成され、前記外環とボス部とはアームによって連結されていてアームを除いた空間部は食肉の通過口として開口されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の食肉移送用スクリーコンベヤ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 0 5  
 【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 0 5 】

上部にホッパーが設けられた水平スクリーンコンベヤの出口部に垂直スクリーンコンベヤを両コンベヤの軸心線を交差させて突き合わされた状態で直交させて連結しており、該垂直スクリーンコンベヤのシリンダーは、軸線方向に分割された一対の部材により構成され、該部材の一方を水平スクリーンコンベヤ側に固着し、他方を一方の部材に対して回動可能に支承する構成とされた食肉移送用スクリーンコンベヤであって、前記垂直スクリーンコンベヤのシリンダーの分割面が水平スクリーンコンベヤの送り方向に対して直交するように配置されており、前記水平スクリーンコンベヤのシリンダー出口部と垂直スクリーンコンベヤのシリンダーとの突き合せ部付近における垂直スクリーンコンベヤのスクリーンの外周に近接した位置に、水平スクリーンコンベヤのスクリーンの先端部を支承する軸受具が設けられ、該軸受具に対し前記水平スクリーンコンベヤのスクリーンの先端部が挿脱可能とされたことを特徴とする食肉移送用スクリーンコンベヤとする。

## 【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 0 6 】

前記垂直スクリーンコンベヤのシリンダーの一方が回動された状態で前記軸受具と水平スクリーンコンベヤのスクリーンとを、若しくは軸受具のみを前記回動されたシリンダー側から抜き取ることが可能に構成された食肉移送用スクリーンコンベヤとする。